の防禦を擔任せしむ

(2) 沖縄本島北部方面には國頭支隊（一大隊）を配置し地形を利用し遊撃戰を實施せしむ國頭支隊の内一大隊は伊江島を守備す

(3) 北、中飛行場方面確保要領

62Dより賀屋大隊を中飛行場方面に又臨時の軍隊區分を以て航空地區諸部隊を合せる特設第一聯隊を編成し北飛行場方面を守備せしむ9Dの抽出以前に於ては24Dは全力を以て北、中飛行場方面の防禦に當りしが一九四四年末9D抽出後に於ては本島南部地區の防禦力薄弱となりし爲軍は24Dを南部地區に轉用し上記の如く補備的配備を以て甘んずるに至れり

三、航空作戰準備

(1) 十號作戰準備下令せらるるや32Aは次の如く飛行場を擴張新設し向方面の航空作戰に遺憾なきを期せり

德之島	一個	伊江島 二個
沖縄本島	北、中、東、南（東及南は未完成）	
	首里秘匿飛行場（未完成）	
宮古島	一個	
石垣島	一個	

海軍は小祿飛行場を擴張すると共に糸滿秘匿飛行場を設定せり

(2) 彈藥關係

約1FD一月分を各飛行場に分散配置す

(3) 航空地區部隊の配置

德之島	飛行場中隊 一	航空通信一部
伊江島	飛行場大隊 一	航空通信一部
沖縄本島	航空地區司令部	
	飛行場大隊 二	

航空分廠　一
獨立整備隊　一
飛行場設定隊　一
航空通信主力

四、兵站（本島）

十號作戰準備下令後糧秣は臺灣より移送し辛じて全兵額に應ずる昭和二十年九、十月頃迄を保有せり
彈藥約一會戰分其の他軍需品は主として九州方面より集積せられたり

三、通信

沖縄島内各兵團との有、無線通信網及沖縄島と南西諸島各島嶼並九州、臺灣との航空系地上系無線通信網は完了しあり

第六章　兵團の素質

一、軍司令部

(1) 軍司令部編成完結後約一年にして部内諸業務漸く圓滑となれり

(2) 軍司令官牛島滿中將は昭和十九年八月第二代司令官として着任同中將は陸軍部内に於ても人格者として知られ支那に於て旅團長として勇名赫々如何なる難局に際しても悠々迫らざる慨あり

(3) 軍參謀長長勇中將は豪放にして曾て張鼓峯事件に勇戰し南方軍總參謀副長として政務に關係し其の後滿洲に在りて昭和十九年八月沖縄に着任せり

二、各兵團

(1) 62Dは一九四三年北支那に於て編成せられ其の編制次等師團（二旅團にして師團砲兵なし）に屬するも長く支那に於て討伐作戰に從ひ實戰の訓練を經あり

(2) 24Dは一九三九年以來滿洲東安省方面に於て防衛に任じありて素質良好なるも兵團として實戰の訓練を經あらず

(3) 獨立混成第四十四旅團の素質は62Dと概ね同等なり

(4) 軍砲兵隊はその司令部並各砲兵部隊共滿洲より轉用せられたるも

のにして其素質、能力最も良好なり

(5) 其の他の諸部隊は素質必ずしも良好ならず

第七章　築城及訓練

一、諸離島作戦の教訓に基き沖縄に於ては徹底的に築城及訓練に努力せり

特に洞窟陣地は多数の自然洞窟と相俟ち全部隊殆んど完成し敵艦砲射撃に対し完璧を期せり

二、訓練

部隊の改編、兵員の抽出、防禦思想の変更等は部隊をして陣地構築に専念せざるを得ざらしめ防禦戦闘に関する訓練の餘裕少かりき

第八章　作戦経過（附圖第一乃至第五参照）

一、空襲開始より沖縄本島上陸迄

三月二十三日米機動部隊は再び大挙沖縄島に来襲し引續き翌二十四日敵の艦砲射撃開始せらるるに及び敵上陸の算大となり軍は「甲戦備」を下令す

（註）S2Aに於ては戦備を甲（敵の上陸作戦に対するもの）乙（空襲及潜水艦等の射撃に対するもの）丙（敵に対し警戒するを要する場合）の三種に區分しありたり

(1) 敵艦船群は當初那覇西方海面及湊川正面に現出せり作戦主任参謀は敵上陸正面を北、中飛行場及湊川正面と判断し軍は北方に於て持久湊川正面に於て攻勢を採るに決し處置する所あり即ち湊川地區方面に対する軍砲兵主力の陣地變換及北方正面第六十二師團より一部兵力の抽出等之なり

(2) 慶良間列島の戦闘

(イ) 軍は海上挺進（水上特攻）五箇戦隊を慶良間（三戦隊）那覇地區（一戦隊）湊川地區（一戦隊）に配置し敵上陸正面に全力を指向して攻撃すべく計畫しありたり

然るに敵は三月二十五日〇七三〇慶良間列島に対し舟艇百隻を以て急襲上陸し水上特攻戦隊は之に対し攻撃するの遑なく直ち

に陸上戰闘に移り大部は潰滅し一部は山内に退避するの止むを
きに至る

（註）西間に退避せる一部は爾後比較的長く無線並刳舟に依り連
絡しありたり

(ロ) 軍は戰力發揮不能となりたる水上特攻戰隊に對し那覇に轉移の
軍命令を下令せしも實況前上の如く一部のものを除き大部の轉
用は不可能なりき

(ハ) 三十一日に到り摩付勢島にも一部の敵上陸す

(ニ) 敵は三十一日〇八〇〇神山島に對し舟艇百隻水陸兩用戰車一五
を以て上陸し直ちに迫擊砲を以て本島に對し射擊を開始せり時
日の經過と共に野戰重砲八十一二門高射砲若干を上陸せしめ本
島に對し擾亂射擊を行ひたり神山島敵砲兵力は大なるものにあ
らずと雖も擾亂的效果少からず之に對し水上挺進斬込又は十五
加を以てする對砲兵戰を實施し之を制壓せざるべからざる直接

の痛痒を感ぜり

二、敵の沖縄本島上陸より主陣地前迄の作戰

(1) 四月一日〇九〇〇敵は大型舟艇約一五〇隻小型舟艇約六〇隻を以
て嘉手納海岸に上陸を開始す其の後方海面には大型輸送船二〇戰
艦巡洋艦級約一〇驅逐艦級以下約三〇上陸を支援しあり又湊川正
面に對して舟艇約五〇を游弋せしめ陽動せり

（註）敵上陸狀況（本文中の數と異るも監視哨第一線の報告を其儘
記載す）

第一波（〇九〇〇―一二〇〇）

北谷	八〇
桑江	五〇
殘波岬	四
平案、比謝川不明	

第二波（一二三〇―一四三〇）

一三〇〇頃リーフの線に待機柔江以北に上陸を企圖

北谷には四〇ー五〇上陸

(2)

(イ)北飛行場方面を守備せる特設第一聯隊は豫定計畫に基き上陸部隊に對し反擊せるも編成直後にして戰力極めて劣弱なる爲暫くにして攻擊力を失ひ爾後二二〇高地附近に退避し態勢整理の止むなきに至る

(ロ)上陸直後の敵の進出狀況左の如し

一四〇〇頃北谷ー佐久川ー中飛行場ー北飛行場の線

夕刻頃北谷ー吳富士ー屋良ー伊良海ー座喜味の線

(ハ)賀屋支隊は敵の進出に伴ひ之に接觸を保ちつつ島袋陣地に後退し之に據る

三、第一次攻勢中止の經緯

(1)四月二日乃至三日の頃敵は逐次我主陣地前に近接し四日正午迄に萩道ー屋宜原ー宜野灣北側ー大山の線に進出す之より先軍參謀長

は敵戰勢の浮動に乘し敵艦砲射擊、爆擊威力を制しつつ敵を攻擊するの法を採しつつあり

即ち我航空特攻に依り相當の成果を收めつつありと雖も依然相當なる艦砲射擊、爆擊を受けつつあるを以て大規模なる滲透前進に依り前地一帶を彼我混入の紛戰狀態に導き敵をして艦砲爆擊の余地無からしめ局部的に近接戰鬪に依り敵を撃滅せんとするに在り

四月三日本攻勢案に關し軍參謀長は各參謀を集め研究審議する所あり

(2)四月四日に至り右攻勢案は軍司令官の裁決する所となり夕刻各兵團長に集合を命し六日より攻勢計畫を内示せり

(3)然れども四日約五〇隻の船團沖縄南方海域に現出せりとの航空部隊通報に接し軍は淡川正面に上陸するの算大なりと判斷し五日本攻勢企圖を中止するに至れり

(4)敵は四月三日小型機の(北)飛行場使用を開始せり

四、第二次攻勢中止の經緯

(1) 四月六日〇二三〇敵は津堅島に對し上陸し〇六〇〇之を撃退す、同日敵は和宇慶―南上原―我如古―八五高地―牧港の主陣地を攻撃し宜野湾街道以西の第一線陣地を奪取す

(2) 四月六日第十方面軍より「第三十二軍は北、中飛行場に向ひ攻撃すべし攻撃開始は四月八日とす」との電報命令あり

又聯合艦隊司令長官は第六航空軍はその總力を挙げて六日の第一次航空總攻撃に引續き沖縄周邊敵艦船撃滅を企圖しあり軍は之に策應するの要もあり、しかのみならず敵の湊川上陸も杞憂となり茲に六日一四〇〇前構想に準じ八日より攻勢を發動する軍命令下達せらる

(3) 七日第一線各方面共に戦闘激烈なり

一五〇〇頃船舶沖に約百十隻の敵船團現出し停船し我左側面に對する上陸に關し懸念せらるゝに至り夕刻遂に軍は本攻勢を中止するの止むなきに至れり

五、第三次攻勢の經緯

(1) 軍司令部に於ては八日午後に至り兩師團を竝列し夫々有力なる部隊を以てする攻勢に關する是非及方法等に關し更に研究を促進すると共に同夜一部を以て斬込夜襲を實施せるも大なる成果を收むるに至らざりき

(2) 四月初頭以來の我陸海軍航空部隊連日の敵艦船攻撃威力は甚大にして航空母艦、戦艦、巡洋艦等に對する撃沈破戦果着々挙り本島周邊の艦船中戦、巡級一二隻内外驅逐艦級一八を戦列外とせり

(3) 四月十日頃に至るや敵艦艇群の勢力激減せられたるものの如く主力は我視界外に去るもの多く來襲機數亦激減す

(4) 一方八日頃には(北)(中)飛行場には中小型機約七十機を算し今後に於ける我航空攻撃は次第に困難となるべきを豫想せしむるものあり

又聯合艦隊(第六航空軍を含む)は十日第二次總攻撃を企圖せるも天候不良にして十二日之を實施する旨通報し來れり

(5) 津堅島に對し〇八三〇舟艇約八〇隻(兵力二大隊と判断)の敵兵

上陸す

(6) 我主陣地正面の敵は第一線約五〇〇〇、戰車約一〇〇にして主陣地前縁爭奪の紛戰を惹起しあり

(7) 右の諸情勢に應し軍は再び攻勢を實施するの要を感ぜり然れども敵の繃深に亘る戰勢の浮動は既に止み主戰力は我が陣前近くに集中しあるに鑑み先づ主戰力集中地帶の殲滅を掃滅するを得策とし十二日夕より大規模なる陣前出擊を爲すに決す（十日決定）

(8) 十一日軍は和宇慶―一五五高地―一四一高地―我如古、嘉數北側地隙の線を保持しあり

(9) 軍は豫定の如く攻勢を開始せるも其の結果は第師團（第二十四師團は歩兵第三十二聯隊を第六十二師團の右翼に加入せしむ）の第一線攻勢兵力十分ならず攻勢の意志も亦堅確を缺き大なる成果を收むるに至らざりき

六、敵の我主陣地に對する攻擊發起

(1) 我が陣前出擊後彼我共に局部的戰鬪の外著變なし然れども前掲數次の不徹底なる出擊の消耗は比較的大にして特に第六十二師團をして戰力を過早に消耗せしめ逐次戰線を集約せしめざるべからざるに至れり

蓋し右戰線の集約は單に兵力上の問題のみにあらず晝間艦砲爆擊に暴露し陣地保持に相當の犧牲を拂ひつつ遂に陣地を敵手に委し夜間之を奪回するは其の戰法の特質上敢て困難にはあらざりしも彼我損耗比は必ずしも作戰目的に合せず寧ろ第二線の新陣地に據り敵を阻止するに勝れりとしたるに依れり

(2) 十八日敵は依然攻擊準備中なるものの如く更に知念半島方面に一部を陽動せしめ上陸の徴候を示せり

又十七日敵は伊江島に上陸す

(3) 敵は我主陣地に接觸を開始してより十數日間詳密なる攻擊準備を行ひ十九日に至り俄然重砲を西海岸道に保持し攻擊を開始す猛烈